

財務諸表からわかる各種の分析指標

新公会計制度の導入により、財務分析に用いられている各種の指標を算出することが可能となりました。今後、継続して財務諸表を作成していき、経年変化などを含めた財務分析を行い、様々な傾向を明らかにしていくことで、翌年度以降の事業の改善に分析の結果を活用していくことが可能になります。

主な財務分析指標

指標	方法・算式	目的・意味
単位あたりコスト	$P L \text{ 経常費用} / \text{単位}$	費用に見合う成果が得られているか、事業が効率的に実施されているかを把握することができます。
市民一人あたり資産額等	$B S \text{ 資産合計} / \text{吹田市人口}$ $B S \text{ 負債合計} / \text{吹田市人口}$ $B S \text{ 純資産} / \text{吹田市人口}$	市民一人あたりの金額に換算することにより、他団体との比較がより有用となります。
費用構成比率	(例：給与関係費比率) $P L \text{ 給与関係費} / P L \text{ 経常費用}$	特定の費用が占める割合を把握することにより、適正かつ効率的なコスト管理が可能となります。
施設維持補修費比率	$P L \text{ 維持補修費} / B S \text{ 固定資産取得価額 (建物・工作物)}$	施設老朽化比率と合せて、施設の維持補修の合理性や効率性を検証することができます。
施設老朽化比率	$B S \text{ 減価償却累計額} / B S \text{ 固定資産取得価額 (建物・工作物)}$	施設の更新計画や修繕計画の立案に有用な情報を把握することができます。
受益者負担比率	$(P L \text{ 使用料及び手数料、国民健康保険等保険料、} P L \text{ 共済加入金・掛金}) / P L \text{ 経常費用}$	受益者負担の水準の妥当性や施設の稼働の効率性を検証することができます。
徴収不能引当率	$B S \text{ (未収金及び貸付金に係る徴収不能引当金)} / B S \text{ (未収金、貸付金の合計)}$	未収金や貸付金などの金銭債権のうち回収が困難と見込まれる割合で、適正な債権管理を行ううえで必要な指標です。
一般財源充当比率	$C F \text{ 一般財源充当額} / C F \text{ 支出合計}$	支出のうち、一般財源（税など）に依存している割合が把握できます。
経常費用対公共資産比率	$P L \text{ 経常費用} / B S \text{ 固定資産取得価額 (建物・工作物)}$	施設を維持・運営するために必要な費用の割合を把握することができます。
投資活動支出対減価償却費比率	$C F \text{ 公共施設等整備支出} / P L \text{ 減価償却費}$	その年度の施設の老朽化の進行に対し、新設・改良などの対応を行った割合が把握できます。
純資産比率	$B S \text{ 純資産} / B S \text{ 資産合計}$	資産のうち、これまでの世代及び将来の世代の負担割合が把握できます。

※ B S・・・貸借対照表 P L・・・行政コスト計算書 C F・・・キャッシュ・フロー計算書